



# ジャックと豆の木

大分大学教育学部附属幼稚園（文責／園長 石川照代）



## 幼稚園には子どもたちの声と笑顔がよく似合う！

2学期が始まりました。園庭に、保育室に、子どもたちの元気で明るい声と笑顔が戻ってきました。やはり幼稚園という場所には、小さな子どもたちがよく似合います。園庭の木々も小さな虫や小鳥たちも、喜んでいるように見えます。

さて、始業式のお話では、子どもたちに「体を使ったチャレンジをしてみよう！」と勧めました。この「チャレンジ」という言葉は、夏休みに入る前の終業式に使いました。私自身が大人になってチャレンジした「けん玉」を披露し、子ども達にも夏休みには何か新しいことや苦手なことに取り組んでみようと呼びかけたのです。子どもたちが一つのことに夢中になっている時のパワー（※）には圧倒されます。そして満足し「できた喜び」を知ると、そのパワーは倍増し、更に新しいことや難しいことに挑戦する意欲に繋がっていきます。

今、幼児期にこの心のパワーを身につけておくことが、学童期・思春期の成長を大きく左右すると言われています。子どもたちの粘り強くチャレンジする姿は、幼稚園では「遊びの場面」で見られます。それを私たちは「遊び込む」とか「遊び浸る」などと言っています。子どもたちにとっては、まるで遊びであるかのような感覚で取り組んでいることが、実はとても重要なのです。

附属幼稚園では、2学期も「遊び込む」子どもたちの姿を目指します。一人一人のチャレンジを力いっぱい援助していくことが、一番近くにいる私たちの使命であると考えています。お家の方のご協力によりその効果は上がります。どうぞ、今学期も温かいご支援をよろしくお願い致します。※文科省は「学びに向かう力」などと呼んでいます。



## されど夏休み！！

40日の夏休み、長いと見るか、短いと見るか。それは立場によって様々だろうが、2学期になって再会した子どもたちに接してみると、ちょっとした言動に「あれ？」と1学期との違いに気づかされる。

じっと皆の様子を窺うようにしていた子がしっかりと群れの中において動き回っていたり、声を掛けられてやっとこなしていた登園後の荷物整理を自分から進んでやろうとしていたり、人前に立つ姿がハツとするほど「自信」に満ちていたり、声を掛けてくれる言葉の数がぐんと増えていたり・・・。

幼児期の子どもの成長のスピードは、「脳の重量の増加」で示すまでもなく凄まじい速さだと言う。40日という時間は、成長を促すのに十分な長さなのである。「たかが夏休み」ではない事の証左。「されど夏休み」



庭で思い切り遊んでほしいと思います！



子どもたちには、秋の園  
 庭で思い切り遊んでほしいと思  
 います！

残暑厳しい八月二十  
 日、早朝より親子でご  
 参加頂き有難うござい  
 ました。お陰様で気持  
 ちよく2学期を迎えら  
 れました。朝夕幾分涼  
 しくなってきました。

あー四  
 が校  
 園一  
 斉清  
 掃上  
 りま  
 した